

第2章 基本構想における理念・将来像

第1節 基本構想におけるまちづくりの基本理念

本町では、これまで、「人間尊重・生活重視・環境調和・文化高揚・経済自立」を基本理念に、「人・物・文化など、地域の資源を活用する」「シンボル事業を中心に、町のイメージと“生活総合品質”を高める」「まちづくり協働体”を創る」を「まちづくりの基本理念」としてまちづくりを進めてきました。

第4次上里町総合振興計画では、これらの基本理念やまちづくりの基本理念を継承し、新たな基本理念を「人と自然が共生するまちづくり」「やさしさと思いやりが共調するまちづくり」「歴史と知恵が共鳴するまちづくり」の3つとします。

この基本理念のもと、これまで築き上げたまちづくりの成果を更に発展させ、かけがえのない自然が豊かに残る上里町を子どもたち、孫たちの世代へ受け継いでいくために、住民と行政が協働でまちづくりを進めていきます。後期基本計画でも前期基本計画同様に上記の三つの基本理念を柱として進めていきます。

(1) 人と自然が共生するまちづくり

本町にとって自然の営みは、住民の日々の生活にとっても、また、農業にとっても重要であり、私たちに優しく包み込み、うるおいと安らぎを与えるかけがえのないものです。

恵まれた自然を後世に受け継いでいくために、住民生活や産業活動のあらゆる機会をとらえ、「人と自然が共生するまちづくり」に努めます。

(2) やさしさと思いやりが共調するまちづくり

みんなで築きあげてきたやさしさと思いやりは、何ものにも代えがたい私たちの財産です。今後も、お互いがお互いに関心を持ち合い、共に支えあい、いきいきと安心して暮らせる地域であり続けるために、すべての人々の個性が大切にされ、人権が尊重される「やさしさと思いやりが共調するまちづくり」に努めます。

(3) 歴史と知恵が共鳴するまちづくり

私たちの先人たちはみな、幾多の困難を「知恵」で乗り越えてきました。その乗り越えた経験が歴史となっています。多様化、複雑化する行政課題を解決し、住みよいまちを後世に受け継いでいくために、経験としての歴史を活かしつつ、住民一人ひとりの「知恵」を結集させ、新たな文化の創造を進める「歴史と知恵が共鳴するまちづくり」に努めます。

第2節 まちの将来像

本町は、都心部から85km圏の恵まれた立地にあり、清らかな水や肥沃な土壌など自然豊かな町です。近年は、児玉工業団地の開設以来、産業的發展を図りつつ、自然と調和したうるおいのあるまちを築いてきました。

21世紀を迎え、我が国全体が少子高齢化や環境問題、産業活性化等に多くの課題を抱える中、本町がこれからも住民の笑顔があふれ、みんなに愛されるまちになっていくためには、町の将来の姿（将来像）を思い描き、住民と行政が協働で、町の特性を伸ばし、課題を改善しながら、その目指す姿に近づいていくことが重要です。

本計画では、新しい上里町の将来像を「人と自然が響きあう“ハーモニーガーデン 上里”」と定めます。

この将来像は、豊かな自然の中で、日常生活の舞台である本町において、まちづくりの主役である私たち一人ひとりが、未来に夢を持ち、互いに支えあい、分かちあい、また、産業のさらなる活性化により新たな生活文化を創造し、人と自然がお互いの存在を尊重し、調和を図りながら発展していく、という意味を込めています。

本町では、第1次総合振興計画において将来像を「緑と太陽のある調和のとれた産業・住宅地域」とし、その後、第2次計画では「緑と太陽のある住みよい上里町」、第3次計画では「豊かで活力ある生活文化都市」（「ガーデンタウン・上里」）としてきました。第4次計画の将来像「人と自然が響きあう」と「ガーデン」は、これらの理念を継承し、更に発展させていくためのものです。

また、「ハーモニー」は、本計画の3つの基本理念である、「人と自然が共生するまちづくり」、「やさしさと思いやりが共調するまちづくり」、「歴史と知恵が共鳴するまちづくり」を集約させたものです。

第4次計画では、この将来像の実現を目指し、住民と行政が力をあわせ取り組んでいきます。

[ま ち の 将 来 像]

人と自然が響きあう“ハーモニーガーデン 上里”